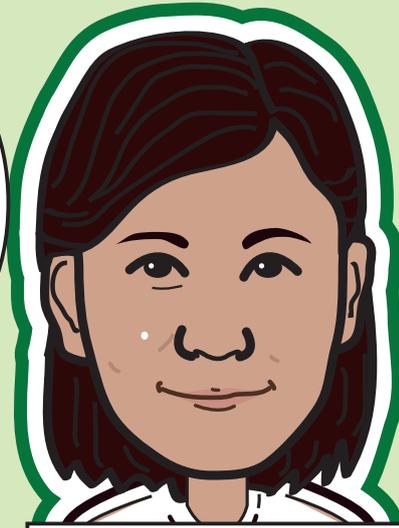


うみっこ通信

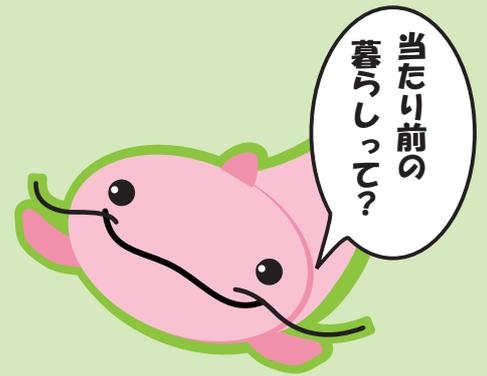


滋賀県立
琵琶湖博物館

LAKE BIWA MUSEUM



おおくほ みか
大久保実香 学芸員



集落の風景

当たり前の暮らしの中から発見しよう

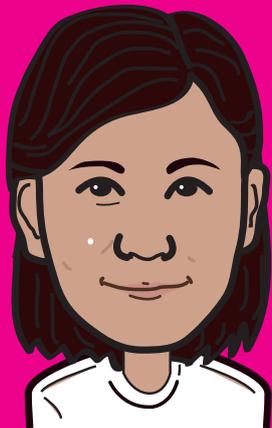
2015.3
No.13

遠くへ行かなくても、すぐそこにもおもしろいものごとを発見することができます。例えば、身の回りの生活について、改めて見つめ直してみましよう。暮らしぶりは、時代や場所によって、違うもの。自分では当たり前だと思っていることが、実は、他の人から見たら、とても不思議だったり、魅力的だったりすることもあります。大久保学芸員は、地域の人からお話を聞きながら、私たちの生活がどんなふうになってきたのかについて、調べています。今回は、暮らしについて研究するとはどんなことなのか、紹介します。

また、西日本の地域（滋賀県を含む19の府や県）で行う「タンポポ調査・西日本2015」を紹介します。調査期間は2015年3月1日から5月31日です。

目次

- 1 今回の特集
- 2 暮らしってどうやって調べるの？
- 3 暮らしが変わるってどういうこと？
- 4 うみっこトピックス「いっしょにタンポポをしらべませんか？」



「当たり前」を
見つめてみましょう

【研究紹介】 暮らしってどうやって 調べるの？



【写真1】地域の方からお話をお聞きします

① 何を調べているの？

私たちの暮らしが、どんな風になりたっているのか、どんな風が変わってきたのかを調べています。昭和の暮らしや、村での暮らしの話をお聞きしながら、町で育った自分の暮らしを見つめ直しています。地域のことを教えてくれる地元の方々との関係を大切にしながら、お世話になった人たちにも喜んでもらえるような研究がしたいと思っています。



【写真2】聞いたことをメモしたノート

② どうやって調べているの？

社会科の調べ学習によく似ています。地域を訪ねて、そこで暮らす人からお話を伺ったり、実際に手足を動かしながら作業のやり方を教えてもらったりします。聞いたお話はその場でメモをとり、研究室に戻ってからパソコンで内容をまとめます。内容に間違いや勘違いがないか、確認する作業も大切です。その地域の特徴をつかむために、他の地域のことを書いた本を読んで比較することもあります。



【写真3】大豆の実とカラを分ける作業

③ どんなところがおもしろいの？

写真3のように、年季の入った道具を、現在でも当たり前に使っている光景に出会うこともあります。写真4は山の畑の様子です。なぜこんなにしっかりとさくをしてあるのでしょうか？それは、シカやイノシシに作物を食べられてしまうのを防ぐためです。生活の中で、変わらないことも、変わっていくことも、あるのです。そこから、未来の暮らしを考えるヒントをもらうことができるのではないのでしょうか。



【写真4】シカやイノシシが入らないよう工夫した畑

④ 私にもできるかな？

身近なおとなに「子どもの頃ってどんなだった？」「今はあるけど昔はなかったものってある？代わりに何を使っていたの？」などとお話を聞いてみましょう。琵琶湖博物館のはしかけグループ「暮らしをつづる会」でも活動していますので、興味があったら参加してみてくださいね。

ボクも調べて
みたいな！



暮らしが変わるって どういうこと？

博物館で
富江家を探検して
みよう



【写真5】1964年の暮らしを再現した富江家の展示



【写真6】富江家の桶風呂



【写真7】今のお風呂



【写真8】富江家の白黒テレビ

① 水道がなかったって本当？

琵琶湖博物館には約50年前（1964年）に彦根市にあった富江（とみえ）さんの生活の様子が再現されています（写真5）。50年前の富江家には、水道がありません。カワヤという水場があって、そこからバケツで水を運んで使っていました。お風呂は桶のような形をしていて、わらで火を燃してお湯を沸かしていました（写真6）。展示をよくよく観察したり、交流員さんとお話したりしながら、あなたの暮らしと同じところ、違うところを探してみましょ（写真7）。

② どんな風が変わってきたの？

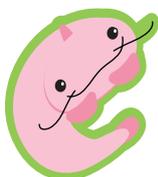
50年前の富江家には、白黒テレビや洗濯機も置かれています。家電製品が生活の中に入ってきて、ちょうど生活が大きく変わろうとする頃でした。テレビで流れるアメリカのホームドラマの中では、家族が水道や冷蔵庫のある家で生活しています（写真8）。ドラマを見て、アメリカの暮らしへあこがれる人も多かったそうです。モノの登場が、私たちの考え方に影響を与えることもあるのです。

③ 今の暮らしも変わっているの？

例えば、新しいモノが入ってくることで、生活が変わったなあと思うことはありませんか？スマートフォン、食器洗浄機、ウォーターサーバーなど、あなたの暮らしに新しく入ってきたものはなんでしょう？あるいは、何か大きな出来事があって、景色やものの見方が変わったことはないでしょうか？そうした出来事を通して、あなたの行動や感じ方は、どんな風が変わったのでしょうか？

④ 未来の暮らしって？

50年前の富江家の展示を見ると、今のあなたの暮らしとは違うところを、きっとたくさん発見できると思います。では、50年後、私たちは、今と同じような暮らしをしているのでしょうか。今とは全然違う暮らしをしているかもしれません。あなたは、どんな暮らしをしたいと思いますか？そんな生活に近づけるよう、一人一人が取り組んでいった先に、未来の琵琶湖の姿があるのではないかと思います。



うみっこ トピックス

主任学芸員 芦谷 美奈子

いっしょにタンポポをしらべませんか？

～「タンポポ調査・西日本 2015」という調査をやっています～

春になると、道路や田んぼのよこに背の低い黄色い花が咲きます。しばらくすると、白い綿毛が丸い形になり、フーッと息を吹きかけると綿毛がフワフワと風によって飛んでいきます。それがタンポポです。小学校2年生の国語の教科書にも「たんぽぽ」のお話ののっているの、読んだことがあるかもしれません。そのタンポポには、何種類もあることを知っていますか。

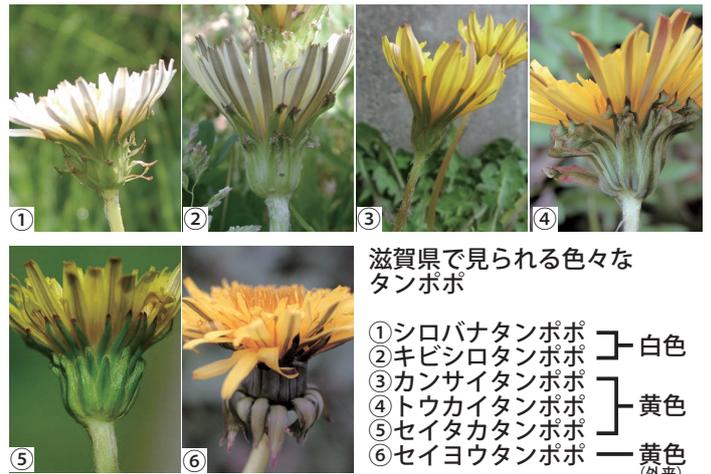
「タンポポ調査・西日本 2015」は、滋賀県から西の方の19の府や県でタンポポを調べる調査です。調査期間は2015年3月1日から5月31日です。チラシをもらって、その裏の紙に必要なことを書いて、タンポポの花や種と一緒に琵琶湖博物館へ送ってください。博物館で花の名前を調べ、データとして集めていきます。タンポポの花を見わけるのは少しむずかしいのですが、この調査は種類がわからなくても参加できる、とてもかんたんな調査です。

滋賀県は、本州のまん中にあるので、東の方や西の方のタンポポなど、色々なタンポポが何種類も見られる場所です。もともと日本にあったタンポポは6種類、外国から来たタンポポは2種類あり、合計8種類が観察できます。



タンポポ調査のチラシ

タンポポといえば黄色い花を思いますが、シロバナタンポポとキビ



滋賀県で見られる色々なタンポポ

- ①シロバナタンポポ
 - ②キビシロタンポポ
 - ③カンサイタンポポ
 - ④トウカイタンポポ
 - ⑤セイタカタンポポ
 - ⑥セイヨウタンポポ
- 白色
— 黄色
— 黄色(外来)

シロタンポポという白い花のタンポポもあります。また、黄色いタンポポの中にも、日本のカンサイタンポポ、トウカイタンポポ、セイタカタンポポ、外国からきたセイヨウタンポポなど、いろいろな種類があるのです。

家や学校の近くに咲いている黄色や白のタンポポが8種類もあるなんて、少しびっくりしませんか？どんなタンポポが、どんな場所にはえているか、一緒にしらべてみませんか？皆さんに調べてもらったタンポポのデータは、種類ごとにまとめて地図に書き入れて、さいごには報告書を作ります。そして、5年後にまた調査をして、西日本のタンポポがどのように変化しているかということもしらべます。

チラシは琵琶湖博物館でもらえます。ぜひ調査にちょうせんしてみてください。